

【研究テーマ】

「キャリア形成をめざした小中一貫教育カリキュラム」の実践

1 グループ校の概要

安倍川中（9学級、生徒218名、教職員22名） 駒形小（10学級、生徒195名、教職員20名）
田町小（14学級、生徒315名、教職員25名）

2 研究の目的

静岡型小中一貫教育の推進において「【視点1】学校の教育目標を共有していること」が最重要であるとする。近隣校や地域で「育成を目指す子ども像」の共有を確実に実施することがコンピテンシーベースでの教育課程の編成や評価改善につながると考える。そこで「育成を目指す子ども像（安倍川プライド）の整理」及び、小中一貫教育に関わる全ての方による「安倍川プライドプロジェクトマップ（学校・地域版）の作成」を実施した。また、地域と学校が一体となり、子どもが「地域のひと・もの・こととのつながりや積み上げを実感（キャリア形成）」するコンテンツ（あべかわ学等）の開発・評価・改善を推進していく。この取組は、令和6年度コミュニティ・スクール設置により更に推進する。

3 取組内容

1 令和4年度までの取組

- ①小中一貫教育推進組織の編成
- ②安倍川グループデイ（合同分掌会議）の実施
- ③小中一貫教育ランドデザインの作成
- ④各部系統図の作成
- ⑤あべかわもちの日（3校合同集会）・あべかわ学（地域を財にした探究型学習等）・グッドスリープウィーク等



2 令和4年度の課題

- 課題1：多数の「育成を目指す子ども像（資質・能力）」が設定されていて、育成イメージがもちにくい。
課題2：「具体的な取組」を通して「目指す子ども像」を育成するというイメージがもちにくい。
課題3：「安倍川プライド」に地域との連携や愛郷心をイメージできる内容が入っていない。

小中一貫夏季合同研修会
3校職員・小中一貫推進協議会・学校支援部会設置委員会による「安倍川プライドプロジェクトマップ」に関する協議



小中一貫教育推進、コミュニティ・スクール設置へ向け、3校・地域が育成を目指す子ども像を共有する必要がある。

3 令和4年度の課題を受けた令和5年度取組

- ①安倍川プライド（育成を目指す子ども像）の整理
- ②3校の教員や地域が「育成を目指す子ども像」を理解し、その育成を意識化するための「安倍川プライドプロジェクトマップ【学校版】【地域版】」の作成
- ③目指す子ども像の育成に向けた具体的な手立てを検討・実施するための「安倍川グループデー（小中一貫合同研修会）」の設定（月1回ペース）
- ④「キャリア形成」や「愛郷心」の育成を目指した、安倍川地区のひと・もの・ことを素材にした教科横断的な学習「あべかわ学」の研究・実施
- ⑤小中一貫キャリア・パスポートの運用

4 考察（成果と課題）

【成果】

①安倍川プライド（育成を目指す子ども像）の整理

11の目指す子ども像を3つの姿に整理し、**自己調整力・人間関係調整力・愛郷心**の3要素を設定したことは、3校職員の相互理解が深まると共に、共通した指導への意識を高めることができた。

②安倍川プライドプロジェクトマップ【学校・地域版】の作成

安倍川中グループの小中一貫教育に関わるコンセプトを一目で分かる形にすることや、**全ての教員・地域協力者が協力し作成**したことは、小中一貫の取組を自分事として捉えられるようになった。また、目指す子ども像の育成を目的とした具体的な取組の検討や実施（PDCA）につながっている。

③安倍川グループデー（小中一貫合同研修会）の設定

必要に応じて部会（教務、学習・研修、生活・生徒指導、特活、総合・生活、特支）に分かれ、対面のみならず、リモートによる研修会を月1回程度開催したり、地域協力者との小中一貫推進協議会・学校支援部会設置委員会を開催することにより**コミュニティ・スクール設置に向けての準備やコンセプトの共有**を進めることができています。

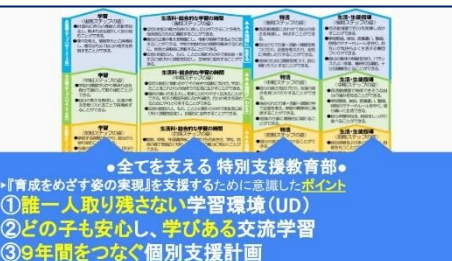
④地域を素材にした教科横断的な学習（あべかわ学）の研究

⑤キャリア・パスポートの運用

あべかわ学では、教師が**つなぐ**、地域と**つくる**、子どもに**つみあげ**を実感させるといった「**3つのつ**」を意識して実践を行ってきたことにより、「地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがありますか。」等の評価項目の肯定的回答が約60%から約80%に増加している。また、キャリアパスポートへの目標達成・人とのつながり・貢献内容の記録により、**積み上げの可視化や自己肯定感（キャリア意識）の向上**につながっている。

⑥研究リード校の設定・各校研究内容の共有

研究リード校は輪番制で設定し、**研究を引き継ぐ**と共にグループデーや実践サイト等により**研究内容を共有**していく。



⑤持続する根のある教育へ

④グループデー等による研究内容の共有・研究リード校（輪番制）による研究の継続

5 今後の方向性

- 学校と地域による「共通目標」としての「資質・能力」の吟味、確認は継続する。
- 教員の異動、地域の方々の異動にも動じない強靱な組織体制の整備を進める。
- 積極的な発信、継続的な支援部員の募集により「地域と共にある学校」の強化を進める。
- 「学校・地域が持続可能な取組」を検討する。⇒**持続する「根のある教育」の構築へ**

1 学校教育目標の共有

2 令和4年度までの課題と改善に向けた取組

①学校教育目標「未来（あす）をきりひらく子」
②安倍川プライド
1 前向きに取り組む子
2 主体的に活動し粘り強く努力する子
3 正しい生活を送る子
3 キャリアプラン（中3の姿）
1 基礎的・基本的な学力 2 自己有用感 3 人間関係調整力 4 定めた生活習慣 5 体力づくり 6 主体的に取り組む力 7 愛郷心 8 社会性・協調性

【整理前】
**安倍川プライド+中3の姿
3+8=11の姿**

①学校教育目標「未来（あす）をきりひらく子」
②新安倍川プライド
1 前向きに取り組む子（自己調整力）
2 仲間と共にがんばる子（人間関係調整力）
3 安倍川地区に誇りをもつ子（愛郷心）
3 キャリアプラン（中3の姿）→新安倍川プライドの3つの姿に含まれるものとした

【整理後】
**新安倍川プライド
3つの姿に整理**

3 安倍川プライドプロジェクトマップ（APPM：軸となる取組の系統表）

【学校版APPM <ねらい>

- ◆安倍川中グループ小中一貫教育のコンセプトを3つで伝える。
- ◆すべての教員が作成にむかふことにより、自分事とらえる。
- 【誰もが理解している】
【誰もが説明できる】

◆重点を置く「安倍川プライド」
①前向きに取り組む子
②仲間と共にがんばる子
③安倍川地区に誇りをもつ子

◆生活科・総合的な学習の時間部
▶「育成をめざす姿を実現する」ために意識した「**3つのつ**」

①つなぐ
▶教師の「つなぐ」意識
②つくる
▶地域と「つくる」意識
③つみあげる
▶子どもに「積み上げ」実感させる意識

◆学習・研修部
▶「育成をめざす姿を実現する」ために意識したポイント

①見通しをもつ
▶ゴールを共有する場の設定
②広げる・深める
▶意図的な対話活動の場の設定
③再構成する
▶表現する場の設定

◆生活・生徒指導部
▶「育成をめざす姿を実現する」ために意識したポイント

①基本的な生活習慣の確立
▶心と体の健康（元気・楽しい）
②健全な集団づくり
▶ルール・マナー
③自己有用感の醸成
▶自己肯定感・達成感

◆特別活動部
▶「育成をめざす姿を実現する」ために意識したポイント

①考える
▶子どもたちが主体となる
②やってみる
▶友達/クラス/学校/地域
③深める
▶活動を振り返る場

3 安倍川プライドプロジェクトマップ（APPM：軸となる取組の系統表）より

APPM（軸となる取組系統表）より

APPM（軸となる取組系統表）より

APPM（軸となる取組系統表）より

APPM（軸となる取組系統表）より